

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09010060

政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1	農業の振興	事業優先度	B		
単位施策	1	土地基盤の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	水土里情報システム利活用事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	9 産業振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	農地の有効利用の促進			#N/A		
事業目標	農地情報の共有化		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	水土里情報システムの利用	水土里情報システムの利用 200千円	水土里情報システムの利用 200千円 オルソ画像更新(2カ年分) 1,692千円	水土里情報システムの利用 206千円 オルソ画像更新 346千円	水土里情報システムの利用 238千円 オルソ画像更新 421千円	水土里情報システムの利用 238千円 オルソ画像更新 421千円
	事業費(千円)	2,962	892	552	659	659
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	2,962	200	892	552	659	659
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,307	200	897	551	659
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	2,307	200	897	551	659	0
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		水土里情報システムの利用	水土里情報システムの利用 オルソ画像更新(2カ年分)	水土里情報システムの利用 オルソ画像更新	水土里情報システムの利用 オルソ画像更新
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前記計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	農地情報の共有化	農地情報の共有化	農地情報の共有化	農地情報の共有化
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	100%	101%	100%	100%
	全体達成率	7%	37%	56%	78%	
	備考欄					
						0%
						78%

事業名	水土里情報システム利活用事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	農地整備係長	苫米地 幸二

様式1  
平成28年度実施  
平成29年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	農業関連情報	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	水土里情報システム	
【抱える課題やニーズは】	農業関連情報の複雑化、煩雑化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	農業関連情報の集約管理による情報の有効活用	① 水土里情報システムの利活用	目標年度	平成28年度
			目標値	100%
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	農地情報の提供、耕作放棄地の抑制、水利施設の利用促進及び長寿命化	②	実績値	100%
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	水土里情報システムの利活用	必要に応じ水土里情報システム内の情報を取得し、有効活用を図った。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	農地や水利施設等に関する地図情報を有効活用し、農村環境の保全と農業の持続的発展を図るため、必要な事業である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	システム活用により、農業関連情報の迅速な取得が可能であり、有効活用が図られた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	インターネット上での閲覧であり、システム使用料以外に経費負担がないことから、効率的と判断する。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町全体を対象としているため、公平と判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
利便性の高い情報の利用により、農村環境の保全と農業の持続的な発展を図ることができるものであり、今後も計画どおり進める必要がある。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
水土里情報システムの利活用により、利便性の高い情報の取得が可能であり、今後も農業関連事業を進める上で必要なシステムであることから、継続して実施すべき事業である。		

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
○終了 ○休止 ○廃止